

インドネシア首都移転計画～候補地カリマンタン島～

インドネシアの中部ジャワ出身であるジョコ・ウィドド氏（通称：ジョコウィ氏）は、2005年にスラカルタ市長に就任、2012年のジャカルタ州知事就任を経て、2014年にはインドネシア大統領選へ出馬し当選、そして今年2019年4月17日に行われた大統領選で再当選し、現在ジョコウィ氏によるインドネシア大統領第2期政策が始動しています。ジョコウィ氏が掲げる2期目の方針としては、①インフラ開発、②人材開発、③投資促進、④官僚主義の改革、⑤国家予算の効率的利用の5つのテーマがあります。

その他、現在ジョコウィ氏は首都移転計画に力を入れており、4月29日に行われた閣僚会議で首都移転計画の方針が閣議決定されました。さらに8月16日に行われた施政方針演説で、ジョコウィ氏により首都をジャカルタからカリマンタン島に移転する方針が正式に表明されました。今回のレポートでは、首都移転計画に関する情報と移転先であるカリマンタン島についてご紹介いたします。

●なぜ首都移転が計画されたか

要因はいくつかありますが、主な要因となっているのはジャワ島へ人口が集中した事による深刻な交通渋滞問題や、経済活動の集中によって発生したジャワ島外との経済格差問題、また地盤沈下問題などが挙げられます。

ジャカルタの人口密度はおよそ15,000人/km（2015年JETRO調べ）とされ、東京23区の人口密度の約2.4倍の密度です。渋滞問題に対してはこれまで様々な対策が実施されています。例えば、ジャカルタ中心部の目抜き通りでは、スリー・イン・ワン（通勤等で混雑が予測される特定の時間帯は一台に最低3名乗車している車輛に限り通行が許可されるもの）や、グナツプ・ガンジル（通勤等で混雑が予測される特定の時間帯は曜日ごと交替でナンバープレートの下一桁が偶数・奇数によって交通が許可されるもの）などの交通規制が行われていましたが、スリー・イン・ワンの実施は、乗車数3人未満の車がジョッキー（道端で相乗りをして稼ぎを得る人々）を乗せて通行をするケースが散見され、政府の思惑通りに通行規制が進まず現在は廃止されています。また、ジョッキーを乗せるため路肩に一時停車をさせる車も多くそれが原因で更に渋滞の悪化を招いたとも言われています。

その次の対策として実施されているのがグナツプ・ガンジルですが、こちらに関してはジャカルタ中心部の目抜き通り以外のエリアへも対象を拡大して現在も継続されています。しかし、多くの人はグナツプ・ガンジル規制が適用される時間帯はその特定の通りを避けて移動するため他の通りが渋滞するなどの欠点もあり、現在も渋滞の深刻な問題が続いている状況です。

また、大幅な渋滞解決策の一つとして2015年に本格的に第1期の建設が着工されたインドネシア初のMRT（地下鉄）についてですが、試運転等を経て2019年4月5日より営業が開始されました。開業当初は改札機のトラブルや電車遅延が目立ち、駅内やホーム共に人でごった返す光景も多々あり、さらに、最寄り駅までの移動手段としてはオートバイが多く使用されているなかで駐輪場が不足していることもあり、政府の期待とは裏腹にMRTの利用率の伸びが悪く渋滞緩和が進んでいない状況です。第1期に続き、2024年開業を目指し第2期の建設も進められており、今後も引続き渋滞対策への取り組みや改善が進められるようです。

経済面に関しては、2017年のインドネシア全体の投資状況は計692.8兆ルピア（1円＝約130ルピア、

2019.7.1時点)であり、うち外国直接投資額は430.5兆ルピア、国内直接投資額は262.3兆ルピア。またそのうちジャワ島への投資額が約56.3%を占める389.9兆ルピア、ジャワ島以外が302.9兆ルピアとなり、ジャワ島への投資が集中しているのが分かります。(2018年BKPM調べ) この度の首都移転計画により、政府は経済成長率を0.1~0.2%押し上げるのが狙いで、経済格差の緩和を進める方針です。

●移転先候補地カリマンタン島と主な州都の紹介

カリマンタン島は別名ボルネオ島とも呼ばれ、インドネシア・マレーシア・ブルネイの3つの領土に分かれており、一般的にインドネシア領土をカリマンタン島、マレーシア領土をボルネオ島と名称されています。狩猟民族のマレー系先住民のうち独自の文化や宗教を持つ土着ダヤク系民族が多く居住しており、2001年に起こったカリマンタン島に移住したマドゥラ人の首狩事件などの民族紛争でその名を耳にした人も多いことかと思えます。カリマンタン島は金・鉄などの鉱山資源や石油・天然ガスが豊富で鉱業が発展しており、多くの人々が職を求め移住した島でもあります。また、これまでダム建設や発電所の建設において、日本のODA支援も多くされてきました。現在はマドゥラ人の他にジャワ人、華僑系インドネシア人やブギス人など多くの民族が共存しています。

カリマンタン島は、西・中部・南・東・北カリマンタンの全5州から成り立ち、各州都は以下の通りです。

- ・西カリマンタン州：ポンティアナック
- ・中部カリマンタン州：パラカラヤ
- ・南カリマンタン州：バンジャルマシン
- ・東カリマンタン州：サマリダ
- ・北カリマンタン州：タンジュンセロル

インドネシアには3つの時差があり、西カリマンタンと中部カリマンタンはジャカルタと同じWIB(西部標準時)に分類され、日本との時差はマイナス2時間となります。

南カリマンタン、東カリマンタン、北カリマンタンはWIT(中部標準時)に分類され、バリ島やスラウェシ島と同じく日本との時差はマイナス1時間となります。距離にしてジャカルタからカリマンタン島の中央部分までおおよそ1,150kmで、ジャカルタからは各5州都への直行便が出ており各々1時間30分~2時間程度でアクセスが可能です。

冒頭でお伝えした通り、8月16日に行われた施政方針演説において移転先はカリマンタン島であると正式表明があったものの、具体的は都市については言及されませんでした。いくつか候補に挙がっている都市情報もありますが、その中でも有力候補地のひとつとして挙げられていたのが初代大統領であるスカルノ氏が開発した都市である中部カリマンタン州のパラカラヤでしたが、8月26日に東カリマンタン州のパンジャム・パサール・ウタラ地方北部とクタイ・カルタヌガラ地方の一部で構成する地域に移転すると発表されました。自然災害のリスクが少ないと言うのが選定理由の一つとされていますが、この案には政府内にも賛否両論あるようです。

●首都移転計画の内容

インドネシア国家開発計画庁が発表した新首都のコンセプトは、政治機能に特化し経済とは切り離れた自然豊かな「フォレスト・シティー」であり、広大な森林地帯やオラウーランの生息地でも有名なセバンアウ国立公園があるパラカラヤが有力候補地として挙げられていました。

2021年～2045年の25年間を移転計画期間とし、3期に分けて開発を進め移転を完了させ、第1期では、立法・行政・司法機関の建物を建設し、第2期では国家公務員等の住宅・教育機関・商業施設などの建物の建設を進め、第3期には国立公園の整備等を進める方針です。

今後も地域住民の了承を得て無事に計画を始動させることができるのかなど、引続き注目を集めるコンテンツとなりそうです。引き続き首都移転計画につきまして進展がありましたら続編としてレポートいたします。

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク（PT. JC内）概要★

所在地：Rukan Tanjung Mas Raya Blok B-1 No. 46

Jl. Raya Lenteng Agung, Tanjung Barat, Jagakarsa,

Jakarta Selatan 12530 INDONESIA

デスク担当者：PT. JC 武井 和宏（たけい かずひろ）

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています（岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託）。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。岡山県産業企画課マーケティング推進室（電話 086-226-7365）までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。